

令和 6 年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	17	学 校 名	静岡南部特別支援学校	校 長 名	川崎 みどり
------	----	-------	------------	-------	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生活年齢、学びの積み重ねを大切にした系統性ある教育課程の実践	生活年齢や学びの積み重ねを意識し、系統的な学習を実践し、見直している	A : 9 B : 13 C : 0 D : 0	B 3.4	・年間指導計画を元に学習を行い、各教科における経験の幅を少しずつ広げることができた。また、学部間の単元のつながりや、学習内容の積み上げの確認を行った。
		学習指導要領に基づき、目標設定や学習評価をしている	A : 11 B : 11 C : 0 D : 0	A 3.5	・単元ごとに学習指導要領と個別の指導計画の目標に基づいた目標設定と単元の学習評価ができ、児童生徒の成長が見られた。
		保護者と教職員が、児童生徒の将来の生活を共に思い描き、情報共有している	A : 9 B : 12 C : 1 D : 0	B 3.3	・個別面談で、教育支援計画を基に将来の生活や必要な支援について情報を共有することができた。
イ	的確な実態把握に基づき「何ができるようになるか」を目指した授業実践	将来像を描き、児童生徒が「どのように学ぶか」を想定した授業づくりを行っている	A : 13 B : 9 C : 0 D : 0	A 3.5	・Sスケールを活用した実態把握を行い、チーム研修での意見や助言者の指導助言を活かし、実践・改善をすることで、職員が「どのように学ぶか」を想定した授業作りを行うことができた。
		児童生徒の実態に合ったICT機器を授業で活用し、将来の生活につながる主体的な学びを促している	A : 16 B : 6 C : 0 D : 0	A 3.7	・ミニ学習会を行い職員の知識を深め、タブレット端末や電子黒板など、ICT機器を活用した授業を行った。授業に取り入れたことで、児童生徒が主体的に取り組む姿が見られた。
ウ	教職員が主体的に語り合っ て取り組む授業改善や業務改善の充実	学年・グループや学部を超えたチームで授業づくりについて語り合っている	A : 16 B : 6 C : 0 D : 0	A 3.7	・チーム研修で職員が活発に話し合いをして授業作りをすることができた。職員への事前課題についての呼び掛けを工夫することで、より活発な研修にしていきたい。
		全教職員が時間外勤務月 45 時間以内、年 360 時間以内で勤務している	A : 10 B : 10 C : 2 D : 0	B 3.3	・業務が重なる時期に、時間外勤務が増え、マイ定時退勤日に、学部での呼び掛けが必要なこともあったが、概ね達成することができた。引き続き業務の平準化に取り組んでいきたい

様式第3号

エ	清潔で衛生的な安心して学べる学習環境づくりの充実	状況に応じた感染症対策や環境整備を行い、校内を清潔に保っている	A : 17 B : 5 C : 0 D : 0	A 3.7	・状況に応じた感染症対策や、校内清掃を行い、校内環境を整えることができた。
		施設不良個所の迅速な修繕と、物品の在庫状況の確認を行っている	A : 18 B : 4 C : 0 D : 0	A 3.8	・施設や教材の修繕や物品購入など迅速に対応し、学習環境を整えることができた。
			事務評価 A:3 B:1	A	
オ	学校安全、防災、防犯体制の日常的見直し、教職員の主体性、共通理解強化	危機管理マニュアルを理解し、緊急時にとるべき行動が分かっている	A : 6 B : 15 C : 1 D : 0	B 3.2	・危機管理マニュアルの十分な活用は課題があったため、避難訓練の実施計画提案時等に、各自の役割分担や動きを再確認する機会を設けていきたい。
		一人一人が小さな違和感を言葉にし、ヒヤリハットにつながる事例を共有している	A : 10 B : 12 C : 0 D : 0	B 3.4	・ヒヤリハットの書式や提出方法を見直し、ヒヤリハットの共有がより速やかにできるようになった。
カ	児童生徒、教職員が自己や仲間を理解し、互いに認め合い、大切にする学校生活の充実	児童生徒が、自分や相手の良さに気づき、安心して学校生活を送っている	A : 13 B : 9 C : 0 D : 0	A 3.5	・お互いを認め合う場面を意識して設定することにより、学習の中で友達の様子に注目したり、応援したりする姿が見られた。
		相手の思いを想像して、物事を捉えたり、行動したりしている	A : 11 B : 11 C : 0 D : 0	A 3.5	・人権目標を定め、子どもが主役で、子どもの気持ちに寄り添う指導ができたことにより、児童生徒が自分の気持ちを表したり、友だちに関わろうとしたりする姿が見られた。
キ	地域、関係機関、保護者と連携した体験的学習や表現活動の充実	学校のことを知ってもらうため、地域に向けて学校の取り組みを発信している	A : 20 B : 2 C : 0 D : 0	A 3.9	・地域交流を積極的に行うことで、児童生徒は、普段体験できない貴重な経験をすることができた。来校者も活動を通して、障害をもつ児童生徒へ理解を深めることができた。
		外部講師や地域資源を活用した学習を計画し、実施している	A : 20 B : 2 C : 0 D : 0	A 3.9	・回数を重ねる中で、児童生徒が交流活動に慣れ、活動を楽しむ様子が見られた。学校間交流等も含めて、できるだけ年度初めに計画を立て、各授業をバランスよく行いたい。

様式第 3 号

ク	共に学び、共に育つ交流及び共同学習の推進	児童生徒が、交流及び共同学習に楽しみをもって参加している	A : 16 B : 6 C : 0 D : 0	A 3.7	・交流の目的や活動内容を適切に設定したことで、児童生徒が学校間交流に期待感をもって臨み、友達と触れ合いながら親交を深める姿が多くみられた。
		ねらいを明確にした交流教育を行い、共生共育の理解啓発に努めている	A : 14 B : 8 C : 0 D : 0	A 3.6	・交流の場で名前や好きなこと、得意な動きや支援の仕方を、写真や動画などで紹介し、交流相手が接し方について知ることができた。
ケ	静岡視覚特別支援学校との連携・協力による効果的な教育活動の推進	日常的に関わり、互いを認め合いながら共に学んでいる	A : 14 B : 7 C : 1 D : 0	A 3.5	・昼休み交流など日常的な交流を積み重ねることで、互いを認め合う姿が多くみられるようになった。